

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	こころとからだを支える看護実習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2,3年		学期及び曜時限	通年	教室名	実習施設
担 当 教 員	下田 基代枝	実務経験とその関連資格	医療施設にて看護師として勤務していた。			
《授業科目における学習内容》						
精神障害により社会生活にどのような影響を受けているのか患者を統合的に理解する。またプロセスレコードにより患者・看護師の関係を築くうえで基本となる、自己洞察を行う。患者がどのようなありたい姿を思い描いているのか知り、そこへ少しでも近づくことができるよう具体的な援助を考える。法的根拠にもとづいた精神科医療と看護の実際を、既習の学習内容と照らし合わせて理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
1) 実習評価の対象および単位認定は出席状況が実習全期間2/3以上の出席が必要である。 2) 実習の評価については、実習態度・実習内容・カンファレンス参加状況により、総合的に指導者と担当教員が評価する。 3) 評価基準については①関心・意欲、態度 ②思考・判断 ③技術・表現 ④理解・知識の4つの観点で分類し、さらに10項目を4段階のルーブリック評価で点数化する。評価は100点満点の60点以上を合格とする。 4) 中間評価で自己評価による振り返りを行い、不足している学習範囲や到達度の確認を行う。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
精神看護学概論/精神保健(メヂカルフレンド社) 精神障害をもつ人の看護(メヂカルフレンド社)						
《授業外における学習方法》						
教科書、配布した資料をもとに復習と事前学習を行っておくこと。また追加学習を効果的にを行い、適宜必要な知識を補うこと。患者の立場をさまざまな視点で見ることができるよう客観的、主観的な考えを区別してまとめる。						
《履修に当たっての留意点》						
知識はもちろん、患者理解には態度面を評価に考慮する。グループでのカンファレンスの運営は基本的に自主的に行うこと。何が問題であるのか、どうすれば良いのかなど、メンバーがお互いに助け合うことが求められる。						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	精神科病院・病棟・病室の構造とその必要性について理解することができる。患者との実際のかかわりやコミュニケーションにおいて、関係構築にあたっての基本的な態度が実践できる。	精神援助論でのプリント、教科書	実習開始前の課題についての自己学習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーションをとおして、病棟や病室の構造の特徴について必要性を理解する。精神障害により入院中の患者とのコミュニケーションをとる。言語的、非言語的コミュニケーションの必要性を理解する。			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	収集した情報をアセスメントすることにより、患者を3側面、あるいは統合的に理解することができる。情報を整理し、アセスメントすることでセルフケアの必要性、あるいは必要とされる援助を明確にできる。	精神援助論ⅡⅢでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)	
		各コマにおける授業予定	カルテ、本人、指導看護師などからの情報をもとに、生活背景や成育歴を含め、さまざまな視点から患者を理解する。セルフケア理論を用いて情報をアセスメントし、患者の持つ問題や強みを具体化し、援助につなげることができる。			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者・看護師関係について、プロセスレコードを利用して振り返りをおこなうことができる。	精神援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)	
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードを活用することで、患者とのかかわりで何が起きているのか客観的に振り返る。			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	理解できた情報を全体像にまとめることで、患者の問題から強みまでを把握することができる。	精神援助論Ⅲでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)	
		各コマにおける授業予定	ケースカンファレンスにより多くの情報を全体像にまとめ、情報を整理する。情報を実際に起こっている状況と結び付けて理解する。また不足している情報についても明確にして、患者の理解を深める。			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	看護問題から看護計画を立案し、具体的な援助を実施することができる。看護計画を実施し、評価、修正を考えることで次の援助につなげることができる。	精神援助論Ⅲでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)	
		各コマにおける授業予定	全体像から明らかになった看護問題から、具体的な援助を計画し、実際に患者に介入する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	中間カンファレンスを行い、実習目標に対して現状の行動の結果を振り返ることができる。また今後の行動目標を修正することができる。	精神援助論Ⅲでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)
		各コマにおける授業予定	中間カンファレンスで自己評価を行い、実習目標を客観的に振り返る。学習が不足している項目を明らかにして、充足させるための方策を個人またはグループで検討する。		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	ディケア学習と体験実習から、地域で生活する精神障害者について理解することができる。	精神援助論Ⅲでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)
		各コマにおける授業予定	精神科リハビリテーション施設の実習で、地域で生活する精神障害者はどのような問題をかかえているのか考える。またどのような資源を利用し、多職種の実際を理解する。		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	看護計画を実施し、評価、修正を考えることで次の援助につなげることができる。	精神援助論Ⅲでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)
		各コマにおける授業予定	具体的な看護計画を実行、修正し、看護が患者の個性性につながっているのか理解する。また計画が患者にとってどのような影響を与えるのか看護計画のシートを利用して振り返る。		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	最終カンファレンスで実習目標に対する達成度を確認する。また実習をとおして学ぶことができたことを振り返る。	精神援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)
		各コマにおける授業予定	こころとからだを支える看護実習をとおして、自己の中で変化したことを振り返り確認する。特に患者との関係性や、精神障害者の看護から、健康に対する考え方、価値観を再考する機会とする。		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	実習での学びを振り返り学びを定着する。また自己の課題を見出す。	精神援助論Ⅲでのプリント、教科書	自己学習の追加(1時間) 情報の整理 記録物の記入(1時間)
		各コマにおける授業予定	個人でリフレクションを実施する。その後、グループでもリフレクションを実施し、カンファレンスを行い、学びの共有を行う。また、課題を見出し、他の実習にも繋げる事ができる。		